



関西支部報

<http://jac.or.jp/kns/>

関西支部設立90周年記念事業

現在までに詳細が決まっている事業(実施中を含む)を紹介します。

1. 関西のアルプス踏査

重廣恒夫

実施対象及び範囲 大阪府・京都府・兵庫県・鳥取県・岡山県・滋賀県・奈良県・和歌山県・三重県に跨る山域にある〇〇アルプスの呼称のある山・山系を対象

実施期間 2021年10月～2025年

実施要領 日帰り踏査及びテント泊踏査実施により登山力のステップアップをはかる。無雪期から積雪期の1年を通じて踏査実施により体力・技術のステップアップをはかる。

実施対象(予定) [大阪府]大阪アルプス [京都府]比叡アルプス [兵庫県・鳥取県]兵庫北アルプス・南アルプス・中央アルプス・東アルプス・上郡アルプス・小野アルプス・加西アルプス・西脇アルプス・新龍アルプス・須磨アルプス・多紀アルプス・播磨アルプス・摩耶アルプス・裏六甲アルプス・神戸アルプス [和歌山県]紀泉アルプス [滋賀県・三重県]湖南アルプス・金勝アルプス・鈴鹿アルプス(北勢アルプス) [奈良県]大和アルプ

ス [岡山県]和気アルプス [鳥取県]浦富アルプス・用瀬アルプス

2. ヒマラヤ登山塾

重廣恒夫

日本山岳会は2025(令和7)年に創立120周年を迎えます。1956(昭和31)年のマナスル登頂を嚆矢として、会の先輩たちはヒマラヤ地域の研究や踏査をおこない、多くの頂に立ってきました。記念事業の一つとして、先人たちの踏んだ頂を眺め、現地の人達の営みの変化や地球温暖化による環境変動などを検証する、カンチェンジュンガからK2に到る5000km踏査の「グレート・ヒマラヤ・トラバース」を始めました。20(令和2)年春に第1回目を実施しましたが、世界的な新型コロナウイルスの蔓延はネパールにも及びカンチェンジュンガからオランチュンゴラまでの踏査は予定通り終わることが出来たものの、ロックダウンで約1ヶ月に及ぶカトマンズでの隔離生活、帰国後14日間の自宅待機を余儀なくされました。その後はネパールへの渡航もままならず現在に至っており、今後の実施も不透明です。海外登山やトレッキング愛好者にとっても、これまでのように個人や旅行会社が主催するツアーに参加して登山やトレッキングを楽しむという日常がなくなりました。一部例外を除いて自由に海外渡航ができない状況下では、運航の縮小や海外旅行の催行ができない状態をもたらしています。これまでの私たちのヒマラヤ登山やトレッキングは、登山専門誌が伝える

令和4年 関西支部総会のご案内

日時：2022年4月20日(水) 18時30分～
 場所：浪速ビル東館地下1階会議室
 大阪市北区万歳町4-12 ☎06-6312-6948
 議事：令和3年度 活動報告、会計報告
 令和4年度 活動計画、予算他
 懇親会：大阪梅田「大東洋」 19時30分～
 会費：5,000円 ☎06-6312-7525

※同封のハガキに63円切手を貼り4月5日迄にお申込みください。
 連絡先：豊田哲也
 ☎090-6433-3108



編集後記	28
支部長のスポンサー紹介 その4	27
「山行ひろば」開催案内(4月～6月)	26
山行委員会行事案内(4月～6月)	23
ルーム目録	23
個人山行	22
スケッチ同好会	21
6 自然保護委員会活動報告	20
5 ヒマラヤ登山塾	18
4 山岳古道調査	16
3 道迷い講習会	16
2 クライミング講習会	15
1 支部山行報告	6
支部山行報告	6
著者と語る会報告	5
山の天気ライブ授業	2
関西支部設立90周年記念事業	1

目次

情報や旅行会社の豊富なパンフレットによって辺境地域の山旅に興味を持ち、気持ちを高揚させながら新たな目標を創り出し行動するという日常生活がありました。しかし、今の状態が長く続くと高峰登山への憧憬やヒマラヤトレッキングに行ってみたという想いも消え去ってしまうのではないかとこの危惧から、同年に設立90周年を迎える関西支部の記念事業の一つとして「ヒマラヤ登山塾」を企画しました。

「ヒマラヤ登山塾」は、「ヒマラヤを視る」(期間):21(令和3)年10月から23(令和5)年3月まで、私が1973(昭和48)年から参加した過去14回の登山隊の活動をスライドや映像・報告資料などで俯瞰します。23年4月から24(令和6)年3月までは「ヒマラヤ登山を知る」として、ヒマラヤ登山隊報告書を紐解きながら、ヒマラヤ登山に必要な体力・技術・組織作りの解説、高所登山における知識(装備・食料・タクティクス・高所医学など)の講義。そして3年の間に「ヒマラヤに行きたい」という機運が生まれれば、25(令和7)年秋か、26(令和8)年春にヒマラヤ登山やトレッキングが実施できればと考えています。

3. キリマンジャロ登山

水谷 透

アフリカ大陸の最高峰キリマンジャロ(5895m)の登頂を目指します。マチャメルートを登り、ムエカルートを下る(一方通行が指定されている)コースで、山中は全てテント泊となります。アイゼンやピッケルを必要とする雪山ではありませんが、標高が高いため高度による低酸素の問題があります。このため、事前に富士山に登り、屋内での低酸素トレーニングも数回実施し、全員登頂を目指します。また、2023年に4000m前後、2024年に5000m前後の海外登山(又はトレッキング)も実施します。

キリマンジャロ登山には定員を設け、申し込み順(優先順位あり)に受け付けます。最終締め切り前には体力および脚力のテスト山行による選考も行う予定です。なお、

コロナウイルスの感染状況により、これらの予定は1年後ろ倒しや、2023年・2024年の海外山行の中止もあり得ます。

【募集要項】

- 時期：2025年2月頃
- 日程：12日間(日本出国より帰国まで)
- 費用：約60万円(燃油サーチャージ、渡航手続き費用、国内移動費用含まず)
- コース：6泊7日 マチャメゲート→マチャメキャンプ泊→シラキョンプ泊→ラバタワー→バラコキャンプ泊→カラングキャンプ泊→バラフキャンプ泊→ステラポイント→ウフルピーク(最高点)→バラフキャンプ泊→ミレニアムキャンプ泊→ムエカゲート
- 定員：12名(テスト山行合格者のみ)
- 参加資格：二泊三日以上のテント泊山行の経験要(最終締切までに)
- 申し込み：先着順(優先順位あり、定員を超えた場合はキャンセル待ち)
 - * 支部会員(会員、準会員、会員会友、支部会友)を最優先し、次に日本山岳会会員、その次に一般(会員友人等も含む)とし、申込時期に関わらず、関西支部会員は日本山岳会会員や一般より申込順位を上位とし、日本山岳会会員は一般より申込順位を上位とする。
- 最終締切：2024年10月頃(テスト山行合格者のみ)
- 申込先：メール：jacmztn@yahoo.co.jp
TEL：06-7161-2252 水谷透まで
 - * 2023年、2024年の海外登山には参加資格等の制限はありません。また、キリマンジャロ登山参加希望者への参加強制もありません(自由参加)。
 - * キリマンジャロを含む海外山行は、(株)西遊旅行の協力のもと実施します。

【日本山岳会120周年記念事業】

山の天気ライブ授業

中久保忠伸

山の天気ライブ授業が猪熊隆之氏を迎えて2日間実施された。この事業は日本山岳会の120周年記念事業として実施されており、関西支部での開催が第一回となりました。

1日目は机上講義、2日目はライブ授業が以下のとお

り実施された。

開催日：11月6日(土)

開催場所：神戸学生青年センター大ホール

1 気象遭難の種類

気象遭難の要因としては低体温症、落雷、沢の増水が

一番多く、計画段階でリスクについて想定することが大切である。登山ルートによっても気象リスクが異なり、想定外を軽減するため、事前の天気予報や現場での観天望気により天候の急変等を予想することが重要である。

2 山と平地の天気の違い

気象遭難は麓と山頂で天候が異なるときに多発しており平地の天気予報だけでは遭難を防げない。山頂の気象予報は、法的規制があり公開できないので、平地の天気予報を利用して事前にリスクを想定することが必要になってくる。

3 気象遭難を防ぐための天気図の活用

低体温症になりやすい気象条件は、低気圧が発達しながら西から東や北へ抜けると日本海で大荒れになることが多く、リスクが大きくなるので注意が必要である。低気圧が抜けた後に等圧線の間隔が狭まりリスクが高まる。

登山前にリスクを読み取るにはどのようにするかの説明がありました。

目的の山にもよるが、森林限界以上で行動する場合は気象リスクが大きいので予想と対策が重要である。具体的には、天気図を1週間前、2～3日前にチェック、前日にも確認して登山中のリスクについて考える。登山中には風と雲の二つをチェックして天候の急変を早く読み取り避難の時間を稼ぐことが重要である。

天気の崩れる流れについて

天気は雲が原因で崩れる。

空気中の水蒸気が温められて持ち上がり冷やされて雲になる。その雲が成長すると天気が崩れ、さらにやる気を出すと雷、雨、雹が降る。

地面が暖められると上昇気流が起きる。上昇気流が起きると天気が崩れる要因となる。山の斜面に水蒸気があると雨が降るが、乾いていると降らない。一方で、海から吹く風は水蒸気を多く含むので、海側から風が吹いてくるかを見極める必要がある。

4 気象遭難を防ぐための地図の活用など

地図は海との位置関係を調べ、天気図は等圧線の向き(風向)や間隔(風速)を見ることが重要である。

大阪近郊の山は比較的安定している、東は台高山系や大峰山系があり北側にも大きな山があるので風を防いでくれるが、唯一紀伊水道からの風や淀川からの風が吹く場合は天候が崩れる。

気圧についての考え方



写真提供：水谷 透

気圧とは空気の重さであり大人の手に100kgの力がかかっている。しかし、上空は5キロ上で地上の半分になる。エベレストは3分の1になる。ポテトチップスの袋がいい例だろう。同じ標高0mでも、空気は冷たくなると気圧が高くなり、暖かくなると気圧が低くなる。つまり温め具合により気圧が違ってくる。風の強さは等圧線でみることができる。等圧線の間隔が狭い時は風が強い、4hPaの間隔が東京・名古屋間と比較して狭い場合は10～15mの風が吹く。15mはふらつくくらいの強さ。雨雪が降っていると、低体温症のリスクがあり、テントはきついの。

目標の山の天気図をみて判断するが、1500m付近の天気図で風向きを調べる必要がある。

落雷と豪雪について

朝から積雲がみられるときは要注意である。いつもより空気が湿っている感じを受ける場合などである。積乱雲が原因で、雷雲(入道雲)が発達する。通常は上空に暖かい空気があり下に冷たい空気だが、逆に上空に冷たい空気、下に暖かい空気があり温度差が大きくなると大気が不安定となり、上と下が入れ替わるときに雲ができて上昇気流がおき、空気がイライラした状態になりキレる原因となる。特に発生しやすいのは、天気図を見て前線を持たない低気圧である(上空に寒気を持っている)。

放射冷却の状態について

盆地や内陸で起きるケースが多い

冷やされた空気が下にたまと、上に温かい空気(雲)が蓋をしたように動かない。川のそばや前日雨が降って水蒸気が上にあり、曇った日の翌日は、その蓋より上にいけば雲海が見える。

【参加者】

水谷透、中久保忠信、柴田美生子、野村 康、橋本圭之輔、竹中雅幸、岡田輝子、池尻英明、薦田佳一、深澤優子、関戸京子、藤原啓恵、前田正彰、坂本明子、田中浩二、

永井 和、茂木完治、小黒節郎、新本政子、中村三佳、
木村陽子、重廣元子、上森文子、久保和恵、高木知子、
山内幸子、重廣恒夫 計27名

開催日：11月7日(日)

開催場所：摩耶山掬星台

当日は空と雲の変化から天気の変化を考慮するための観天望気の基本を実施。

天候は基本的に夏を除いて西から東へ変化するが、常に西からとは限らない。日本海側の山は日本海から天候が崩れる。

雲は風に運ばれるので風上を確認すること。現場で風がある場合は風向きをコンパスで確認する。

観天望気では風向が重要である。

低体温症の三大原因は ①風と②濡れ、③低温。肌着に綿は絶対にだめである。肌着濡れ面は、濡れが乾くときに熱を奪われて体温が下がるからだ。アウターも重要(防水性・速乾性)で、それぞれの長所短所を考えながら使い分ける。低体温の事故は風速15m以上で雨や雪が降ると発生するので、森林限界を超える手前、風が強くなる前や尾根に出る手前で、雨具をキチンと着ているかをチェックする。前日に濡れたものが乾いているかななども重要だ。

低気圧、前線が近づくと周りで上昇気流が起きる。平地と山の天気が違う場合に気象遭難が起きるのは、山の斜面で上昇気流が起きて天候が崩れる場合である。

海の上を長く吹く場合は水蒸気を含むので、山の斜面では上昇気流が起きて天気が崩れる。



写真提供：水谷 透

近畿の天候についての説明

現地では海から風が吹くのに晴れていた。このケースは対岸の金剛山方面から陸からの風で、海は少しだけしか通過していない。こんな日は、金剛山の奥の高い山大峰や台高などは天気が悪い。また、山を越えると下降気流が起き、京都方面と奈良方面の風がぶつかって上昇気流が起きている。

1 見える雲についての解説

うね雲(層積雲)：海の上でできやすい。暖かい海面や地上付近が温められる場合に上空1500m付近に冷たい空気が入る場合にできる。

わた雲(積雲)：温められた空気で雲ができてはすぐに消える。わた雲が入道雲になる場合もある。

うす雲(巻層雲)：低気圧などが近づく場合にできるが西に広がる場合は注意が必要である。うす雲は発達しないものの、おぼろ雲→あま雲になってくると、数時間後に雨が降る。寒冷前線や低気圧が近づくと、急に天気が悪化する。



これからは冬型の気圧配置となるケースが多くなり、北西から風が吹く、天気は日本海側から変化する。

飛行機雲が長く残ると天気が崩れるケースがある。上空が湿っている場合や前線や低気圧が近づいてくる場合は飛行機雲が長く残る。

暗い雲：雲が厚くなると天気が崩れる。平地で雨を降らせる積乱雲(入道雲)と乱層雲(あま雲)などである。

山で危険な雲

積乱雲(入道雲) 落雷・突然の豪雨

笠雲 強風・天候悪化

レンズ雲 強風・天候悪化

2 地形による気象への影響

山に入ってから天気図を見られないので体感で判断する。ジメジメする、風の方向や暖かさが変わる、大粒の雨が降ってきた場合などは、雲がやる気を出している。計画段階で避難する場所を決めておき、リスクマネジメントマップなどでどこにどんなリスクがあるかをイメージしておく。

遭難は気象遭難だけでなく様々な要因が複合的に絡まって発生する。

- ・エスケープルートの確認が必要である。
- ・引き返すか停滞かのポイントを決めておくこと。
- ・例えば森林限界・尾根手前・主稜線手前・沢を渡る手

前など。

3 風が気象に与える影響

谷風と谷風が尾根上でぶつかって雲ができやすい内陸や盆地の峠などは、雷が発生しやすい。京都からの風と奈良からの風は、地形図を見ると確認できる。

雷雲が発達する場合は風がない、風が弱い時はすぐに雷雲できる。

雷発生時の対応

- ・送電線の下は安全
- ・雷雲(寿命は30分~60分)
- ・耳をふさぐ
- ・登山バッジにも落ちる
- ・沢が安全

音もなく落ちる場合がある

【参加者】

水谷透、中久保忠信、柴田美生子、野村 康、橋本圭之輔、竹中雅幸、薦田佳一、深澤優子、関戸京子、藤原啓恵、前田正彰、坂本明子、田中浩二、後藤健治、茂木完治、山内幸子、重廣恒夫 計17名

著者と語る会報告

後藤健治

講師：稲葉 香氏

「WINTER DOLPO 122 Day」極寒のドルポ越冬122日間の記録

著書：『西ネパールヒマラヤ最奥の地を歩く』

11月14日(土)大阪セルロイド会館3階大会議室

講師は、河口慧海の足跡をたどり、西ネパールのドルポで越冬経験をした稲葉香氏である。氏はこの業績で2020年の植村直己冒険賞を受賞した。

定刻となり司会が開会を告げる。大阪セルロイド会館の三階大会議室には30名ほどの聴衆が入り、換気のため窓を開放しての実施である。

リウマチ発症。歩けなくなるまで、歩いてやろう

稲葉氏が18歳の時だった。この先痛くて歩けなくなると宣告を受けたが、どうせ歩けなくなるのならそれまで歩いてやろうと旅を始める。その延長で山に出会い、植村直己を知った。植村直己の人柄に惚れ込んだ稲葉氏は、

エベレストを見たいと願うようになる。

植村直己へのあこがれで飛んだネパールで、稲葉氏は忘れられない朝を迎える。発症以来約10年間、ずっと続いた身体の痛みが消えていたのだ。エベレスト街道を進むにつれて高度は上がっていくのに、うれしくてカラバタールまで歩いた。

河口慧海との出会い、足跡を追って西ネパールへ

ヒマラヤの自然治癒力を身をもって体験し、ヒマラヤに惹かれた稲葉氏は、やがて河口慧海にたどりつく。チベット入国に注いだ情熱に共感するだけでなく、慧海の手記から彼もまたリウマチであったと気づき、この出会いは運命だと確信する。「この人が歩いたところを全部歩こう」。そこからネパール通いが始まった。

自然の中で暮らすため稲葉氏は千早赤阪村へ移住する。慧海への思いはつものものの、西域奥地は外国人が許可なく立ち入れない。これまでツアーや個人旅行しか経験

のない稲葉氏には行くすべもなく、ブログに思いを書いていた。それを讀んだ西ネパールの精通者・大西保氏の後輩が、大西氏へとつないでくれた。

大西氏との出会いは5月だったが、その8月には遠征隊の一員として念願の西ネパールにいた。慧海の足跡をたどり、慧海がチベットへ越境したというクン・ラ峠に立つ。また未踏峰カンテガ(6060m)への登頂も果たし、地図にないルートをたどる面白さを知った。2年後の大西調査隊にも続けて参加し、未開エリアの開拓経験を積んだ稲葉氏は、3回目の西域踏査からは自ら調査隊を組織(ただし女子3人仲間)。慧海の足跡をたどるだけでなく、12年に一度の仏教巡礼祭といったフィールド調査や6000m級の未踏峰を複数座登頂するなど精力的に活動していく。

そして単独越冬へ

やがて、冬はみんなどうやって暮らしているのか。例えばどうやって寝ているのか。冬の生活を見てみたい、身をもって体験したいとの思いがつのってきた。今までの訪ネはすべて夏。現地のとてを頼り、滞在地はサルダン村となった。5000mの峠を2つ越えないと入れない平均標高4000mの村。冬は完全に閉ざされてしまうため村人ですらギリギリで生きている。滞在中の食料および燃

料など、越冬準備200kgを荷揚げして、現地での生活がはじまった。

越境ポイントはクン・ラ峠が通説の中、マゲン・ラ峠の調査も重要な目的の一つ。一週間程度の食料を担いで峠までを踏査し、どうやら慧海はここではなさそうだとの感触を得る。サルダン村での冬の祈り(冬のプジャ)を撮影したり、近隣のニサル村での正月のお祭り見学するなど、冬の西ネパール文化に関するフィールド調査を重ねた。

稲葉さんは気さくな人柄で話しもおもしろく、時間がたつのを忘れて講演に引き込まれた。特筆すべきはその行動力で、「思いが100%を越えたら必ず実行する」という彼女の信念には深く感銘を受けた。質疑応答では「越冬中、言葉は何を使っていたのか?」(大阪弁だそうです(笑))等活発なやりとりが交わされて、まだまだ話を聞きたかったが閉会となった。

【参加者】

岩崎しのぶ、岡田輝子、岡野武司、川久保美美子、黒田記代、後藤健治、柴田美生子、高木知子、田頭夏子、豊田哲也、永井 和、中川委紀子、中久保忠伸、中村三佳、廣瀬貞雄、深澤優子、水谷 透、宗實二郎、茂木完治、会員外7名 計26名

支部山行報告

1. 支部山行報告

支部山行21-31 月例会(10月)
「比良 蓬萊山」

岡野武司

10月3日(日)晴

コロナによる行動制限も月例会実施日の3日前で解除されて久々の山行です。天候は快晴。暑くもなく、涼しすぎるといふ気温でもなく、登山には最適な気温でした。

志賀駅を出発し樹下神社前を經由し、自動車専用道下のトンネルを通り登山口に着くまでは、アスファルトの道を歩行。そこから先は少し小石があるような登山道。しばらくすると堰堤に出会う。私自身、このコースを歩いたのは10年以上前で、その当時はこの堰堤はありませんでした。そのためか、持参した2.5万分の1地形図にもこの場所に堰堤の地図記号はなし。途中、天狗杉を経

由してクロノトハゲに到着。登山口を出発して、クロノトハゲまでの道は一般的な登山道。日陰が多いので直接陽に当たることなく、またハードな登り道が長く続くところもない道であった。クロノトハゲのピーク周辺は砂地で、傾斜があり滑りやすい場所であった。登山道から



蓬萊山山頂 撮影：岡野武司

少し離れた場所で昼食をとる。

クロノトハゲを出発。平坦な道を進むとロープウェイの山頂駅が見えます。山頂駅の手前で少し急な登り道の歓迎があったがやっとの思いで山頂駅に到着する。コロナで行動制限が解除されたこともあり、多くの人で賑わっていた。元々この辺りは積雪時にはスキー場として開業していて、雪のない時期は家族向けで遊べる設備がある。そんな人たちの中を尻目に、蓬莱山の頂上に到着する。山頂周辺には三角点があり、他にも案内用に人の背丈以上のケルンがあり、とにかく広い山頂である。

ここから下山口の薬師の滝まで、まずは小女郎峠まで進む。小女郎峠から先は今回のコースで一番難儀な下り道である。最初の100m～200mの距離は慎重に歩く。足を置くと不安定な箇所があり、落石を発生させてしまうので慎重に進む。慎重を要する箇所もあったが、全員無事にJR湖西線蓬莱駅に到着することが出来ました。

【コースタイム】

志賀駅8:45～11:05天狗杉11:10～12:00クロノトハゲ12:20～13:40蓬莱山13:50～14:15小女郎峠14:25～17:15蓬莱駅

【参加者】

岡野武司、黒田記代、小林又七、関戸京子、永井和
計5名

きた。鉾山は秀吉に直轄されたこともあり、4億5千万両の金が埋蔵されているそうです。下山時に正保元年につくられた村上新田と里山の風景を楽しみました。



写真提供：前田正彰

【コースタイム】

前田橋～10:13ソエ谷峠～11:35悠久の館(昼食)12:40～13:22村上新田～14:25ふれあい公園～パークタウン中央

【参加者】

久保和恵、山内幸子、魚津清和、山下政一、淡野隆久、薦田佳一、橋本圭之輔、金川清弘、黒岩敦子、池尻英明、坂口和子、播戸日出生、前田正彰、中田栄、田頭夏子、高木知子、野口恒雄、青木昭、横山規江、野村康

計20名

支部山行21-34 ゆるやか山行 里山探訪2
「近畿自然歩道 ソエ谷峠～多田銀銅山」

野村 康

10月21日(木) 曇時々晴

新型コロナで過去最大の第5波が何故か一気に収束し緊急事態宣言が解除されての初のゆるやか山行に参加させて頂きました。快適な日和で、20名が参加された。

コースは近畿自然歩道を歩き、ソエ谷峠(標高330m)から猪名川町歴史街道へとハイカーに程良いものだった。

天災・天然痘・政変を収めるべく建立された東大寺大仏に全国から銅が寄進され、多田銀銅山も寄進したという言い伝えがあり、当時の人々の信仰深さが偲ばれる。絵図、古文書等が展示されている悠久の館で、江戸幕府直轄時代の代官所跡地を見ながら昼食を取り、精錬所跡(近代産業遺産)、高札場の跡地を見学。当時は、銀山3千軒といわれる賑わいがあり、五榜の掲示の札には「人たるもの五倫の道を正しくすべき事」、「鰥寡孤独廃疾のものを憫むべき事」とあり、コロナ禍の現代に通じるものと思う。銀山地区は2千箇所以上の間歩があったそうで、青木間歩、水抜通風穴、露頭掘の跡を見ることがで

支部山行21-35 第1回関西のアルプス踏査
「播磨アルプス」

岩崎しのぶ

10月24日(日)晴

今日のコースは播磨平野を包み込むように、馬蹄型に連なる山々を縦走します。

曽根駅からバスに乗り替え鹿嶋神社前で下車。秋祭りなのか、広場で子供神輿が威勢よく引き廻している。今では希少価値の懐かしい光景だ。鉄骨チタンパネル張の大鳥居をくぐり、本堂で安全を祈願し登山口へ。ゆるやかな道を少し登るといきなり百間岩の大岩壁が現れる。スラブ上の岩を這いつくばるようにひたすら登っていく。稜線には高い樹々が無いので視界が開け、硬い岩盤を快適に歩くと4等三角点の鷹ノ巣山に着いた。更にアップダウンを何度も繰り返して、やがて高御位山に到着。日曜日のためか、山頂は凄い賑わいだ。大きく重なる岩盤の上に立つと、眼下に播磨平野が広がった。刈り取られた田んぼの向こうには神戸製鋼所の煙突が立ち並ぶ。その先は穏やかな瀬戸内海で淡路島や明石海峡大橋までが望

める。秋晴れの下、抜群の景色だ。

昼食後皆で3等三角点を探し回ったら、何と高御位神社の南片隅にちょこんと頭だけ覗かせていた。随分と埋もれてしまったものだ。

下山は南東に延びた尾根を下っていく。山域全体がフリクションの効く岩盤で、安心して足が下ろせる。一旦大きく下って東への急峻な大岩を登ると小高御位山だ。山頂には小さな祠が祀られている。また元の尾根に戻り送電線真下の中塚山に到着、更に南下し北山奥山へ。ここからの展望は素晴らしい。古代は古墳の石棺に、中世は鳥居や城の石垣などにも使われた石を算出した竜山の採掘跡が痛々しい。小休憩を取り、元の分岐に戻り一気に下る。コスモス畑の向こうに播磨アルプス連山が立ち並び、まるで絵画を観るようだ。北山鹿島神社を通り、曾根駅へと長い道のりを歩く。

脚が不安で重廣リーダーのすぐ後ろを歩かせて貰ったが、お蔭で無事歩き終えることが出来た。満足感と感謝の気持ちで一杯だ。



百間岩を登る 写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

鹿島神社大鳥居10:00～10:31百間岩基部展望台～11:18鷹ノ巣山～12:19高御位山～13:22小高御位山～14:04北山奥山～14:48北山鹿嶋神社～15:49曾根駅

【参加者】

重廣恒夫、上森文子、岡野武司、黒田記代、中村三佳、野村康、前田正彰、岩崎しのぶ、会員外1 計9名

支部山行21-39 雪稜シリーズ①

「六甲・蓬莱峡 アイゼンワーク」

江村俊也

10月31日(日)曇

雪稜シリーズの第一回目として蓬莱峡でアイゼンワーク。初心者もいるということで岩場ではなく砂場でのア

イゼン歩行を中心に練習することとした。

宝塚駅で集合した頃は雨だったが、蓬莱峡に着く頃には雨が止み、曇り空へ。広場でアイゼンを装着しピッケルを持って砂場の急斜面へ。登り、下り、トラバースと歩き回る。普段なら埃だらけとなるところだが、雨のおかげで濡れており却って快適である。昼休憩を挟んで夕方近くまでアイゼン歩行練習を行なった。

【参加者】

鷲本晴香、井川浩彰、今宿瑛三郎、中村三佳、関戸京子、深澤優子、江村俊也 計7名

支部山行21-40 わんぱく探検 「若山 315.2m」

小黒節郎

11月3日(水)晴

コロナの影響で二年ぶりの開催。高槻市郊外の磐手橋バス停集合後は消毒実施するなど対策も万全にして運営。朝から爽やかな秋晴れに恵まれて全員怪我無く無事に終了することができた。親子参加は8組31名と前回より大きく増えたので、事前に担当の豊田さんより応援スタッフの追加要請があった。結果スタッフの会員10名参加となり8家族に専属担当を付けることが出来たので感想文の中にも「とても安心だった」と感謝の言葉があった。子供参加のイベントなので安全確保が大原則と再認識。コースは大都市近郊の低山ながら随所に展望が素晴らしい所があり、自然と触れ合う機会としては親子ともども満足できた様子であった。下りが急で苦勞している子供達もいたが、親御さんやスタッフがサポートしてくれて「わんぱく探検」にふさわしい苦勞を乗り越える経験ができたのではと感じた。豊田さんが事前にクイズや写真のお土産を準備しており、参加者には好評だった。運営



撮影：小黒節郎

面では茂木さんが個人として「簡易トイレ」を持参していたが、女子トイレへのスムーズな対応など、今後はよりきめ細かい対応が必要と認識した。今回はトイレ休憩が多くなり当初の予定よりコースを短くする結果となった。

支部の恒例イベントながら、私は今回が初参加。地域貢献としては価値ある企画なので来年以降もできるだけ参加していきたい。

【コースタイム】

磐手橋バス停9:55～10:17三好大明神10:22～11:00金龍寺跡11:15～11:53見晴らし台12:00～12:08若山山頂12:10～12:15展望地13:00～13:50桜井台

【参加者】

豊田哲也、茂木完治、中久保忠伸、薦田佳一、黒田記代、永井和、小林又七、小黒節郎、山内幸子、柴田美生子
親子8組31名(子ども16名、保護者15名) 計41名

支部山行21-41 六甲山を歩く
「伝承の古道“魚屋道(ととやみち)”」
松仲史朗

11月3日(水)晴

コロナ禍の影響で一年ぶりの「六甲山を歩く」だった。集合場所の改札口では「久しぶり。お元気そうで何よりです。」の、皆さんが笑顔で挨拶されていた。晩秋の好天に恵まれ爽やかな山行が期待される。

駅近くの魚屋道の石柱とわが街の史跡案内板がある大日靈女神社より出発。魚屋道は江戸初期から灘地方と有馬を結ぶ東六甲最古の山越え交通路で六甲越えと呼ばれていた。山の方向に歩き出すと、神社の内と外を分ける境に立てられている鳥居には「稻荷神社」と書かれ、手前に石碑「稻荷之社 従是三町」がある。森稻荷神社で山行の無事を祈願。魚屋道の森北町登山口から登り、蛙岩を目指す。蛙岩の裏側に回ってみると確かに子カエルを背にしたカエルに見える。蛙岩からは尾根筋の快適な山道に変わる。風吹岩は一部が崩落して上がれないように黄色いテープで立入り禁止になっていたが、様々なルートから登ってこられたハイカーで賑わっている。

雨ヶ峠で予定より遅い昼食にする。七曲り入口に、やっと到着し遠く感じた。七曲りは一軒茶屋手前の崩落箇所が高巻きの迂回路経路となっていた。一軒茶屋の前のドライブウェイ沿いの手洗いは、場所が変わって新しく立派に建て替えられていた。一軒茶屋から予定時間を超過し有馬駅に到着、本日の山行を終えた。

長い間中止していた「六甲山を歩く」は足慣らしのつ

もりだったが、蛙岩と雨ヶ峠、一軒茶屋ではハプニングがあり、大変お世話になった。



蛙岩で 写真提供：前田正彰

【コースタイム】

阪神深江駅9:00～9:28森稻荷神社～10:28蛙岩～11:12風吹岩～12:55雨ヶ峠～13:18本庄橋跡～13:25七曲り入口～14:22一軒茶屋～16:10有馬温泉駅

【参加者】

前田正彰、横山規江、青木昭、野口恒雄、野村康、宇都宮浩、山本義博、宗實二郎、松仲史朗 計9名

支部山行21-43 ゆるやか山行 【里山探訪2】
湖南の山「立木山・袴腰山」

池尻英明

11月18日(木)晴

9時51分南郷バス停で下車し、全員集合したところで久保CLから挨拶があり、本日の参加者は32名で、その平均年齢は77歳とのこと。長年参加されていた浅田博三様が11月4日ご逝去されたとの報告があり、全員ご冥福をお祈りして1分間の黙祷を捧げた。

国道の反対側広場で準備体操をし、衣服を調べて出発。立木観音までは緩やかな上り坂で、みなさんコロナ禍で久しぶりに会った方々と色々情報交換をしたりして、ゆっくりしたペースで立木観音着。本殿を参拝、水分補給、用足し、境内を散策したりして、長めの休憩を取った。本殿裏の木々は紅葉真っ盛りであった。

約15分の休憩の後、立木山へ向かって出発、本格的な登山道となり、少しずつ勾配を増してゆき、登りついたところが立木山。三等三角点を確認して次の袴腰山へ向かう。アップダウンを繰り返し、登りきったところできなり開けた場所に出た。木漏れ日の日差しの中でのランチタイム。

食後のコーヒーを飲み、身支度をして出発。朴の木

落葉が一面に積もった道を進んで行くと341mの見晴台。今まで眺望のなかった尾根道で初めて琵琶湖方面が眺められる場所だ。立ち止まって眺めた後50m登ると本日の最高点袴腰山。木々に囲まれて眺望なし。撮影スペースは十分あるが、光線の関係で集合写真を撮るスペースは限られて、魚津さんは構図を取るのに苦労されていた。

緩急の下り坂で積もった落ち葉を踏んでサクサクと音をたてて下った。バス停に向かって歩く途中で振り返ってみると、左手に見事な台形状の袴腰山が眺められた。国道手前の月見台公園前で久保CLから解散の挨拶と次回の案内があり、それぞれバス停へ向かった。無風状態で小春日和の気持ち良い山行であった。



立木観音裏参道に行く 写真提供：豊田哲也

【コースタイム】

南郷バス停9:51～11:09立木観音本殿～11:40立木山～12:18昼食ポイント12:45～12:56見晴台～13:21袴腰山～14:29湖南発電所～14:37芋谷橋～14:58南郷バス停

【参加者】

久保和恵、山内幸子、黒田記代、新本政子、魚津清和、上田典子、内田嘉弘、内田昌子、黒田守彦、薦田佳一、坂口和子、田中昌二郎、豊田哲也、野口恒雄、野村康、橋本圭之輔、松村文子、松村竹次郎、茂木完治、森沢義信、山崎詮、山下政一、金川清弘、小林三喜男、高木知子、田頭夏子、田中アキエ、淡野隆久、中田栄、播戸日出生、横山規江、池尻英明 計32名

支部山行21-45 雪稜シリーズ②

「白鳥山」

松仲史朗

11月20日(土)曇

金沢駅7時57分発IRいしかわ鉄道富山行に乗車し、富山駅であいの風とやま鉄道泊行に乗換える。45年ぶりの

路線にわくわくしながら車窓を見た。泊駅からタクシーで坂田峠駐車場へ。富山県と新潟県の境界の白鳥山を目指す。坂田峠からのルートは急勾配から始まる。振り返ると糸魚川市街地と日本海が見える。急勾配は金時ノ頭まで続き、はしごやロープが設置されている。金時ノ頭より少し先に水場のシキ割がある。ここからしばらく「樺」「水樺」などの広葉樹林が茂る緩斜面を進むと山姥平。やがて山姥ノ洞分岐と合流した後、白鳥山頂の避難小屋に到着した。ガスで山並みは見えない。小屋は2階建て、1階は広々として快適な板間。夕食は江村さんが3人分作ってくださる鍋だ。夜空は、くっきりよく見える北斗七星と煌々と輝く月。冬が始まる前のこの季節は、なんとなく愛おしいものだ。

11月21日(日)晴

鹿の鳴き声で目が覚める。空が明るくなってきた。2階から、きれいなご来光を望む。梅海新道越しに犬ヶ岳朝日岳が見える。遠方に剣岳立山が拝める。反対方面は火打山雨飾山の山並が一望できる。今日は晩秋の好天に恵まれ爽やかな山行が期待される。小屋の出発は予定より遅い。坂田峠へ戻る。途中で出会った人は、朝日岳方面へ登山する人たちだった。金時の頭と坂田峠まで遠く感じ、やっと到着し無事山行を終えた。タクシーで越中宮崎駅を目指すと、お昼どきになったので、運転手さんの案内で「たら汁街道」の飲食店に到着。名物「たら汁」は絶品で満腹。歩いて駅に向かう途中、日本海の広がり的魅力的な宮崎・境海岸（ヒスイ海岸）に寄り道。「ヒスイ海岸駅」の愛称が付されている越中宮崎駅から家路につく。



白鳥小屋を望む 撮影：松仲史朗

【コースタイム】

20日 坂田峠10:37～12:00金時の頭～12:19シキ割～15:26白鳥山(白鳥小屋)

21日 白鳥山(白鳥小屋)8:22～9:49シキ割～10:04金時の頭～11:32坂田峠

【参加者】

江村俊也、中村三佳、松仲史朗

計3名

支部山行21-46 第2回関西のアルプス踏査
「小野アルプス」

黒田記代

11月21日(日)晴

小野町駅から登山口の福甸峠(ふくでんとうげ)まで鴨池、女池、皿池の間を縫う様に舗装道路を約1時間歩く。道路沿いに突然、登山口を示す看板があり身支度を整え「小野アルプス縦走」を開始した。

1時間半ほど歩くと3つ目のピークで本日のハイライトの岩場がある紅山に到着。多くの登山者が紅山を楽しんでいた。福甸峠からのルート



紅山の岩場を下る 写真提供：前田正彰

を登る人は少なく、多くの方は女池ほとりの登山口から入山するようである。今回は岩場を下るルートで、急斜面の岩場歩きに慣れていない参加者がいたため、安全安心確保のためのロープを張って、安全に下降出来る

ように配慮した。

その後、低山であるが7つのピークを登って下り、予定通りのルートを歩き通した。暗くなる前に市場駅に到着出来ホッとした。

【コースタイム】

小野町駅9:34~10:37福甸峠~11:56紅山~13:41惣山~14:22総山~15:28安場山~16:25高山~16:42白雲谷温泉~17:01市場駅

【参加者】

岡野武司、黒田記代、小林又七、重廣恒夫、豊田哲也、永井和、野村康、前田正彰 計8名

支部山行21-48 月例会(11月)
道なき山に行く「北摂・烏ヶ岳」

水谷 透

11月27日(土)晴後曇

藪が薄い時期を選んで晩秋に企画したものの、最悪を見込んで登り1時間、南尾根の下りを2時間とし、全行程4時間半の計画を立てた。しかしながら、終わってみると僅か3時間の山歩きだった。

東掛の駐在所のポストに登山届を入れ、小泉春日神社近くの幅員が広がったところに車を駐車して、神原に向けて道路を歩く。神原の集落で右に折れ、神泉寺の前を通過して進むと堰堤に出会う。堰堤の少し手前に左へ入る踏み跡を辿り、烏ヶ岳から西に延びる尾根に向けて登る。下生えのない疎林の中、標高差100m余りのなので、すぐに頂上に着いてしまった。頂上には2等三角点と木に標識があるだけで、展望はない。

昼食をとるにはあまり早すぎるので、進路を南に尾根を辿ると左下(東側)に林道が現れた。現在の地形図に林道はないが、平成25年発行の地図には北の竜ヶ尾山から林道が延びてきている。本日の最高地点となる440m峰では木の間越しに北東方向に愛宕山が望める。ここで昼食を摂るうちに、北から押し寄せてきた雲が愛宕山を隠し、やがて雨がパラパラしだした。慌てて荷物を纏め歩き出すもすぐに止んでしまった。

この先、地形図からは尾根の分岐を間違えそうな箇所が2か所読み取れる。1か所目は直進しそうなところを意識して右に下り始めたが、右に寄りすぎたようですぐ



烏ヶ岳から最高点へ 撮影：水谷 透

に正しい尾根に戻った。もう1か所は間違ってもなく辿り、幾つもの細かな尾根の分岐を一つひとつ確認し、小泉春日神社近くまで下ってくると左下方に建物が見え、はっきりとした道が現れる。神社へは道から逸れて右に藪に突っ込む必要があるが、

道をそのまま下り桜塚クリーンセンターに出た。

尾根先を回り込むようにして小泉春日神社に到着。すると再び雨が降り出したが、この雨も大したことなくすぐに止んでしまった。駐在所のポストに下山届を出し帰路に着いた。

【コースタイム】

東別院町小泉春日神社10:00～10:28神泉寺～10:50烏ヶ岳
11:05～11:30 440m峰11:50～13:00小泉春日神社

【参加者】

黒田記代、永井和、水谷透、茂木完治、山内幸子

計5名



竜王山三角点前にて 撮影：黒田記代

支部山行21-50 月例会(12月)
撰津峡～竜王山～キリシタン自然歩道～
千提寺口BS

黒田記代

12月5日(日)晴時々曇

12月の月例会担当の豊田さんから「体調不良で行けないので中止する」と連絡がありましたが、天気予報も良いし、申込者全員が是非行きたいルートだったので中止するのが残念で、リーダーの豊田さんの承認を得て実施することになりました。事前に詳しいルート図を頂いて、参加者3人で慎重にルートを確認しながら実施することにしました。

上の口BSに集合し、撰津峡入口まで舗装道路を歩く。ここから先は東海自然歩道を撰津峡の白滝、竜仙の滝と歩き、46号茨木亀岡線の車道に出る。車作大橋あたりから46号線を離れ清水廃寺・経塚を経て、竜王山に向かった。

竜王山山頂は広く、木々に覆われていて見晴しはないが展望台がある。ゆっくり昼食休憩をとり、展望台からの眺望を楽しんだ後、三角点で記念写真を撮り忍頂寺BSに向け下山した。ここまで東海自然歩道を辿ってきたがこの先、キリシタン自然歩道を歩きたいねとの話(“キリシタン”という言葉にひかれ)になり、予定コースの東海自然歩道を泉原BSに向わずに、キリシタン自然歩道を歩いて千提寺BSに向うことになった。入口が分かりにくかったが、農道を歩きキリシタン遺物資料館に出る。後は千提寺口BSに向うだけであったが、三人ともBSの場所を思い違いして道を間違え迷った後、千提寺口BSに到着した。予定していた一便後のバスで帰宅することになってしまった。

【コースタイム】

上の口BS8:25～8:52撰津峡入口～10:52竜仙の滝～12:49

竜王山13:35～14:18忍頂寺BS～16:10千提寺口BS

【参加者】

宇都宮浩、黒田記代、永井和

計3名

支部山行21-51 沢登り例会
「武田尾・武庫川、西之谷」

関戸京子

12月5日(日)曇

「12月に沢に行く？ この寒いのに」夫は呆れかえった様子でつぶやいていた。「歩いているうちに暖くなる」と言って出てきたもののやはり、今日は寒かった。

前日奈良県で地震があり、急遽場所を武田尾・武庫川の西之谷に変更した。武田尾付近は駅から武庫川に沿ってハイキング用の快適な道が続き、近くに温泉もあって人気のハイキングコースだ。この日もハイカーや野鳥見る会の人たちで賑わっていた。

JR武田尾駅から約50分、武庫川の下流に向かって廃線跡のハイキングコースを歩き、さくらの園の入り口に着いた。ここから登山道を少し上がり、ゲートをくぐって下に降りたところがもう沢だ。慎重にあまり水に濡れないように石の上を狙って歩く。駅からこんなに近いところに綺麗な沢があるとは予想もしなかった。小さな流れを越え、すぐ滝に着いた。「霞滝」高さ8m、ここまでは順調で汗ばむほどであった。ところが次の「桜滝」でこぼれた。下からみても20mほどの水の流れが何段にも割れて下に落ちてくる。

1人ではとても登れない。ここはみんなで頑張る。安全確保のために細引きとロープを出し、ビレーをする。ちょうど私の立っている岩のところに滝からのしぶきがまともに跳ね返り、じっとしているとだんだん寒くなる。我慢できずザックをおろし、レインコートを羽織るが、

それでも寒い。

冬は待ち時間に体が冷えることを想定してあらかじめ衣服を着るべきであった。なんとか核心部の3段目を斜めから登りきりほっとする。

「ここが桜滝」と茂木さんに教えてもらった。しかし案内板では「満月滝」となっていたような気がする。地理を良く知らない人が案内板を作っているようだ。

最後に満月滝に着く。見るからにヌメヌメとしていてとても登れそうになく、早々に回避した。ここで今回の沢登りの目的はほぼ達成。

しばらくして沢からあがり、大峰山(552.3m)を目指す。山頂に着いたのが午後3時。登山口に戻ったのが午後4時頃、武田尾の駅には5時前に着いた。廃線跡のトンネルはもう真っ暗で、対面からなにやら白いものが近づいてきて肝をつぶしたが人であった。予定時間を1時間ほどオーバーしたが、無事桜滝を登ることができ、充実した沢登りであった。



大峰山頂上にて 写真提供：中久保忠伸

【コースタイム】

登山口9:56～入溪10:09～10:11かすみ滝～11:30桜滝12:15～14:15コル14:35～15:02大峰山15:08～16:16登山口

【参加者】

中久保忠伸、小黑節郎、小壁正義、茂木完治、関戸京子
計5名

支部山行21-54 ゆるやか山行 歴史と文化をたずねて
「甘南備山 雌山・雄山」

黒田守彦

12月16日(木)晴

前日、CL久保さんから「午後から雨の予報だが決行する」との連絡があったが、当日は冬日和に恵まれた今年最終の山行になった。山行後の忘年会は残念ながら中止

した。

甘南備山は古くから、神の宿る山として信仰の対象になり、人々の生活を支える里山の役割を果たしてきた。毎年1月3日には市の行事として新春初登りが行われている。甘南備山のある京田辺市に隣接する城陽市在住の内田嘉弘・昌子ご夫妻に、コース案内や文化財史跡解説等をしていただいた。

参加者確認後ガイド役の内田さん、CL久保さんを先頭に出発。登山口まで1時間ばかりの途中には古くから拓けた土地だけに歴史的に著名な寺社、史跡が多い。棚倉孫神社(タナクラヒコ)、瑞饋神輿(ズイキミコシ:里芋の茎のズイキや赤い唐辛子、茄子などで神輿船体を飾っている)を見学。酬恩庵(一休寺)山門で小休止。薪神社(タキギ)。近くの広場で初参加の廣瀬貞雄さんの紹介後、いつものようにSL山内さんのリードで準備体操を行う。直ぐ傍に「能楽発祥の地」の石碑があった。長閑な田園風景の中を登山口に到着。衣類調整をし、内田さんからコース説明を受け、登山開始。

川沿いの道からヒノキの小径～尾根の小径を登り、40分で甘南備山・雌山(二等三角点)に着いた。直進して尾根の小径を下り、扇池で約30分間、昼食・集合写真をとる。木漏れ日の小径～ささやきの小径を登り、神南備神社に参詣して小休止、すぐ上の雄山を往復後出発し、北へ10分で展望台に着いた。素晴らしい眺望で、木津川市の三上山から大焼山、鷲峰山、喜撰山、比叡山、京都北山の棧敷ヶ岳、愛宕山、西山のポンポン山まで望める。登山道入口に戻り、往路と同じ道をJR京田辺駅へ帰った。途中の一休寺山門で集合写真を撮り解散した。希望者は一休寺を参詣、見学した。



小春日和の扇池畔にて昼食 写真提供：豊田哲也

【コースタイム】

JR京田辺駅9:30～10:37登山道入口～11:20雌山～11:37扇

池～12:31雄山～13:49登山道入口～14:15一休寺～
14:40JR京田辺駅

【参加者】

久保和恵、山内幸子、黒田記代、新本政子、魚津清和、
上田典子、内田嘉弘、内田昌子、薦田佳一、坂口和子、
豊田哲也、中島隆、廣瀬貞雄、深澤優子、松村文子、松
村竹次郎、森沢義信、山下政一、黒田守彦、池尻英明、
金川清弘、黒岩敦子、小林三喜男、高木知子、田頭夏子、
田中アキエ、淡野隆久、中田栄、播戸日出生、横山規江
計30名

支部山行21-55 第3回関西のアルプス踏査 「湖南アルプス」

重廣恒夫

12月19日(日)曇

JR琵琶湖線石山駅に集合し、バスでアルプス登山口
に向かう。下車後天神川沿いに迎え不動に向かう。人気
のコースとあって林道の脇にも車が停まっている。今回
は首都圏からの参加者が2名あり総勢12名といつもより
多い人数で太神山に向けて歩く。2体の石像が立つ二尊
門で小休止の後、不動寺本堂を経て奥の院のある二等三
角点で記念写真。胎内くぐりをして不動寺本堂で昼食、
その後矢筈ヶ岳に向かう。我々より先行した若い集団と
入れ替わりに矢筈ヶ岳に立った。出合峠から西進し御仏
河原を経て笹間ヶ岳に向かうが、途中の池の湖面のたた
ずまいに初冬の神々しさを感じた。八畳岩からは瀬田川
流域から比良山系の展望を楽しみ上関のバス停に向か
った。林道に降り立った所で「名神高速道路 田上関津工事」
で上関バス停までの東海自然歩道が通行止めとなってい
たので、林道をアルプス登山口バス停に向かった。



笹間ヶ岳山頂にて 写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

アルプス登山口バス停8:50～泣不動10:35～太神山11:27
～矢筈岳13:19～出合峠13:29～御仏河原14:41～八畳岩14:
53～笹間ヶ岳15:50～16:49アルプス登山口バス停

【参加者】

岩崎しのぶ、上森文子、岡野武司、黒田記代、永井和、
中村三佳、野村 康、前田正彰、吉井修（首都圏）、小原
俊（首都圏）、重廣恒夫、会員外1 計12名

支部山行21-56 雪稜シリーズ③ 「大峰・八経ヶ岳」

江村俊也

12月25日(土)雪

熊渡からチェーンで車止めされている林道へ。冬型と
の予報通り雲は厚く残念ながら陽の光は望めない。林道
の終点からいよいよカナビキ尾根へ。500m以上標高を
上げるこの尾根の登りが今日最も体力を使うところであ
り、じっくりと登ることとする。登り初めはうっすらと
雪がついている程度だったが、尾根を登り切る頃にはく
るぶしを超えるほどの積雪となっていた。

天川川合に至る尾根に到着したのは13時過ぎ。かなり
かかった感じがするが、計画通りである。ここから先頭
を代わりながらラッセルしてゆく。積雪は増えるが膝程
度であり行動に支障があるほどではないのだが、初めて
の方にとっては苦しく感じる深さだろう。ナベの耳から
の頂仙岳巻道は比較的是っきり出ており今日の積雪量で
は問題になる箇所もなかった。巻道から稜線に戻ると、
やっと登りが終わりと思ってほっとした。高崎横手から
は下り道。吊り橋を渡りやっと狼平避難小屋に着いた。

水汲みをしてから小屋の2階に上がり、夕食の鍋を囲
む。雪は降り続いており、外に出るたびに積雪が増えて
いた。

12月26日(日)雪

一晚雪は降り続いていたようで、昨日と比べ40cm以
上雪が増えていた。当然山頂へ向かうトレースはすっか
り消えている。残念ながら山頂は難しそうだが行けると
ころまでラッセルしよう、そう決めて小屋を出た。雪は
深くおおむね膝まで、部分的には太腿まで潜った。山頂
ピストンのため軽い荷物だが、慣れないラッセルはかな
り大変だっただろう。風も強くなってきたこともあり、
もう少しで稜線というところで終了とした。下山してか
らGPSログを見ると大黒岩まで半分ほどの距離であった。
避難小屋に戻って小休止後、下山へ。積雪のため下山

もラッセル混じりであった。金引橋から林道へ帰る頃から風が強まり雪も強くなった。帰り着いた車の屋根には驚くほどの雪が積もっていた。

温泉で凍えた体を解凍してから帰宅。

【コースタイム】

25日 熊渡9:15～9:51金引尾根・弥山川分岐～狼平避難小屋 写真提供：中村三佳
 10:01金引橋～13:03カナビキ尾根分岐～14:13ナベの耳～15:02高崎横手～15:27狼平避難小屋
 26日 狼平避難小屋5:46～撤退地点～7:26狼平避難小屋
 8:23～9:03高崎横手～9:52ナベの耳～10:52カナビキ尾根分岐～13:23金引橋～13:27金引尾根・弥山川分岐～14:08熊渡

【参加者】

今宿瑛三郎、中村三佳、深澤優子、江村俊也 計4名



狼平避難小屋 写真提供：中村三佳

2. クライミング講習会

クライミング初級(10月～12月)報告

支部山行21-33 クライミング初級
 「六甲・蓬莱峡」

江村俊也

10月10日(日)晴

緊急事態宣言の明けで久方ぶり、易しいルートを中心に登った。プランクの長さを感じながら、再び登攀できる嬉しさを感じた。

【参加者】

茂木完治、今宿瑛三郎、関戸京子、岡野武司、深澤優子、江村俊也、会員外1 計7名

支部山行21-36 クライミング初級
 「六甲・蓬莱峡」

江村俊也

10月28日(木)晴

予定では堡壘岩だったがルート変更しない方が良いと考えて蓬莱峡で行うこととした。前回とほぼ同じルートだがトップを交代しながら登った。

【参加者】

茂木完治、黒田記代、今宿瑛三郎、中村三佳、深澤優子、江村俊也 計6名

支部山行21-42 クライミング初級
 「六甲・蓬莱峡」

江村俊也

11月11日(木)曇

今回も蓬莱峡で行った。今回はリード練習を中心に確実に登れることを重視して登った。

【参加者】

黒田記代、豊田哲也、深澤優子、江村俊也 計4名

支部山行21-52 クライミング初級
 「六甲・蓬莱峡」

竹中雅幸

12月9日(木)晴

2班にわかれ、終日班替えすることなく登った。基本的に1人目がリードし、2人目・3人目はバックロープを引いてロープをかけ替え、4人目が確保されてフォローする。

3級～5級+(5.3～5.8)程度のルートを4本登ってこの日は終了。夕方、タクシーで宝塚駅へ戻り解散した。

個人的には2016年のナンガマリ峰遠征のトレーニングで訪れて以来5年ぶり2度目の蓬莱峡で、新鮮な気持ちで登ることができた。次回は今回手をつけられなかった他ルートや、小屏風岩にも登ってみたい。



大屏風岩を見下ろす 写真提供：豊田哲也

【参加者】

江村俊也、豊田哲也、茂木完治、黒田記代、野村康、井

3. 道迷い講習会

道迷い講習会

今宿瑛三郎

12月12日(日)曇

現在、コンパスと地図だけで登山に向かう人は少ないと思います。

私が登山を始めたのは3年ほど前ですが、すでにGPSアプリをスマートフォンに入れて正確に登山道をトレースする事が出来ました。しかし、デジタル機器には故障や電池切れのリスクが少なからず存在し、故障の確率の低いアナログはバックアップとして有効ではないかと思えます。

現在はインターネットの進化により、欲しい情報が簡単に手に入る時代です。情報に触れる事により、分かったような気になりますが、実地で体験するものとはまるで違うものだと感じました。繰り返し経験を積むことにより、より一層精度を増したアナログ技術は自分自身の安全を守ることに役立つと思えます。

しばらくは、始めて登る山にはあえて地図とコンパスのみで挑戦し、デジタル機器はバックアップとして携帯するようにして経験を積もうかと考えています。

最後になりましたが、とても有用な講習をしていただいた青山先生、有難うございました。地質の話、とても面白かったです。

ぜひ次回もよろしく願います。

【講習スケジュール】

道場駅9:00～12:00風吹岩～16:00下山



地図上で現在地を確認 写真提供：豊田哲也

【講師】青山千彰

【参加者】

茂木完治、黒田記代、青山千彰、豊田哲也、深澤優子、野村康、宇都宮浩、前田正彰、広瀬貞雄、今宿瑛三郎、岡野武司、井川浩彰、中久保忠伸、上森文子、永井和、会員外1名 計16名

4. 山岳古道調査

支部山行21-32 第3回山岳古道調査 「葛城修験の道」大福山第3経塚

野村 康

10月9日(土)晴

今回は、役行者の母公の墓のある高仙寺、高野山城跡大門跡、千間寺跡(飯盛寺跡)、札立山、二十八品第三(警諭品:三車火宅の譬えという教え)経塚の大福山、滝谷地藏、小川地藏等の位置をGPSで調べ写真を撮った。

修験道と言えば、道なき道をかき分け、崖をよじ登り沢を伝う等、過酷なイメージがあるが、今回のコースは紀泉アルプス縦走路で整備されており歩きやすく、天候に恵まれ、快適な山行となった。眺望も大阪湾が見渡せ紀ノ川にある水管橋も良く見えた。

【コースタイム】

南海孝子駅9:08～9:32高仙寺～10:08高野山～11:35飯盛山～12:56札立山～14:36大福山～16:18小川地藏分岐～17:08 JR六十谷駅

【参加者】

永井和、黒田記代、新本政子、岩崎しのぶ、重廣恒夫、山内幸子、辻和雄、深澤優子、野村康 計9名

支部山行21-37 第4回山岳古道調査 「葛城修験の道」雲山峰第3経塚から墓ノ谷行者堂

井川浩彰

10月30日(土)晴

今回は大福山までの前回調査済の部分と、大福山近くの第三経塚跡、籤法(せんぼう)ヶ岳、井関峠、雲山峰第三経塚及び墓ノ谷行者堂までの未調査部分で構成される。

経路は全体として整備されていたが、役行者堂への分岐入口はわかり辛く少し荒れていた。経塚やこれに関連する祠は手入れがなされ、真新しい花や柳が供えられ、相当年数が経った現在も地域に根付いたものとなっている

ることがわかった。

特に、役行者堂は役行者とその母公を祀るお堂であるが、想像より新しい建造物である。しかし、階段を上った位置に窟(いわや)があり、そこには役行者と思しき座像と立像が祀られ、行場の雰囲気にも満ちた印象深いものである。

入会から日の浅い私はこのような調査は初めてで、これまで地元の山として漫然と歩いていた登山道も、葛城修験の道としての意味付けがなされることで、興味深く歩くことができた。



雲山峰山頂にて 写真提供：永井 和

【コースタイム】

JR六十谷駅9:18～9:45本恵寺9:45～小川地藏分岐10:17～奥辺峠11:20～大福山(第三経塚)12:25～雲山峰(第三経塚)14:30～行者堂15:30～小川地藏分岐16:41～17:08JR六十谷駅

【参加者】

黒田記代、永井和、新本政子、岩崎しのぶ、深澤優子、野村康、井川浩彰、坂田洋子(鳴松山岳会)、会員外1名
計9名

支部山行21-44 第5回山岳古道調査
「葛城修験の道」根来寺と倉谷山第五経塚
薬草喩品

中川委紀子

11月20日(土)晴

今回の古道調査への参加は、関西支部古道調査担当から根来寺案内の依頼をいただいたことによる。以下に葛城山系の古道とその経塚信仰の由来の一端を略述したい。

葛城の山岳古道は、鎌倉時代編の霊山縁起集『諸山縁起』によれば、平安時代以前から山岳修行の道場であった。同書に、「宿(しゅく)の次第～行者の歩み歩みたまう御足の下に、六万九千三百八十四字あり。散じて余念乱心な

し。五種の法師行じて十願を立て、発行し給う峯なり」とする。「宿」は行場や仏拝所の意で葛城には九十五ヶ所、その三十四番目豊福寺が根来寺の濫觴地である。また山中を歩む行者(役行者)の足下に69384の文字が在るとするが、これは中国の注釈書に『法華経』の総所載文字数とある。修行者は『法華経』に擬した山道を歩くのである。一心に「歩く」ことで仏を尊び、犯した罪を悔い改める仏法に会い、その功德で成仏(さとりに)導かれるという。

『法華経』は、最も流布した大乘経典のひとつで、二十八章(品)から成り、平清盛一門が奉納した「平家納経」(国宝 厳島神社蔵)で知られる。『妙法蓮華経』ともいい、妙法すなわち釈迦の教えを伝える教本として、誰もが平等に成仏できることを説く。写経は、礼拝、読経、香華(線香や花を供える)、造寺造仏(仏像や寺をつくる)と同様の功德とされ、書写経典は経筒に納めたり、69384文字の一文字一文字を小石に墨書して峯中の二十八(品)の各経塚に埋納したりした。永承7年(1052)、日本は釈迦の教えが衰える末法に入るとされた。人々の恐れは信心を生み、五十六億七千万年後に出現する救世主弥勒(みろく)を待つ間埋経し、後生に安穩を託した。葛城の経塚も古人の想いの結実であろう。忘れつつある日本人の信心や想いを辿るJAC創立120年記念の古道調査の意義は深い。

【コースタイム】

根来寺大門9:57～10:50菩提峠～12:13林道土仏峠～13:46倉谷山(第五経塚)～14:49廃村今畑～15:37九頭竜明神八王子社～16:22神通バス停

【参加者】

黒田記代、永井和、山内幸子、新本政子、重廣恒夫、深澤優子、野村康、久保和恵、岩崎しのぶ、中川委紀子
計10名

支部山行21-53 第6回山岳古道調査
「葛城修験の道」志野峠松峠第6経塚中津川第7経塚

永井 和

12月11日(土)晴

12月の山岳古道調査は葛城修験の道・志野峠松峠第六経塚、中津川第七経塚であった。根来寺から第五経塚を経て神通に出た修験者は、粉河街道を北に行けば犬鳴山へ、南をとれば志野峠・松峠を経由して粉河・中津川に出たと考えられる。第六経塚は三箇所あり、今回すべてを確認できた。いちばん新しく認定されたのは旧池田ト

ンネル上のものだが、近畿分水嶺踏破の際にこの経塚を
通っており(2009年8月)、記録にも残っている。志野峠
と松峠で残り2つの第六経塚を確認後、尾根伝いに中津
川アラレの宿の第七経塚に向かった。最初は広い林道だ
ったが、途中で林道はなくなる。終点の分岐がわかりに
くかったので、道なりに進んでしまった。間違っている
ことに気づいてもとに戻ったが、少し藪漕ぎを強いられ
た。

粉河クリーンセンター跡からは舗装路歩きとなり、第
7経塚を確認したあと稗木の宿へピストンし、中津川前
鬼谷に向かった。果樹園の道を左に入り、急な斜面をト
ラバースする道に入ったが、最近は通る人が少ないのか、
倒木や倒竹で荒れていた。中津川の行者堂は葛城修験道
では重要拠点で、大峰奥駈道でいえば深仙宿と前鬼にあ
たる場所とされる。行者堂から丁石道を下り、松木宿跡
を経由して粉河寺に出て、調査山行を終えた。



志野峠第6経塚 写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

神通バス停9:30～10:22旧池田トンネル上(第六経塚)～
11:06志野峠(第六経塚)～11:17松峠(第六経塚)～13:20ア
ラレの宿(第七経塚)～13:45稗木の宿跡～14:43熊野神社(前
鬼谷)～14:54中津川行者堂～16:30粉河寺～16:43粉河駅

【参加者】

黒田記代、永井和、重廣恒夫、新本政子、久保和恵、山
内幸子、岩崎しのぶ、豊田哲也、深澤優子、野村康、井
川浩彰、中川委紀子、会員外1名 計13名

5. ヒマラヤ登山塾

支部山行21-38 第1回ヒマラヤ登山塾
日本山岳会のヒマラヤ登山を振り返る
＝ヒマラヤ登山の連鎖＝

重廣恒夫

10月31日

1時間半をかけて、1961(昭和36)年中学2年の時に読
んだ人類最初の8000m峰登頂記録『処女峰アンナプルナ』
から、ヒマラヤに行くための岩登りを初め、冬の岩壁の
継続登攀がヒマラヤを登るためのトレーニングであった
事、エベレスト南壁登山を契機に14回参加した登山隊の
様子をパワーポイントで解説しました。

また、日本及び世界のヒマラヤ登山が爛熟期にあった時
代の背景を、

- ① 1950年代～2000年代日本国内登攀記録数及びヒマラ
ヤ登山隊数の推移
 - ② 1965年～2020年ヒマラヤ登山隊数
 - ③ 日本隊のヒマラヤ入山者の内訳
 - ④ 8000m峰14座初登頂史(登頂順)
 - ⑤ 8000m峰14座初登頂史(高度順)
 - ⑥ 日本山岳会100年の歩み
 - ⑦ 日本山岳会会員によるヒマラヤ初登頂
 - ⑧ 日本山岳会によるヒマラヤ登山一覧
 - ⑨ 日本山岳におけるヒマラヤ登山の連鎖
 - ⑩ 会員によるヒマラヤ登山(抜粋49人)
 - ⑪ 日本経済とヒマラヤ登山の推移
- 等の作成資料で説明しました。

今後につきましては、参加した登山隊の概要やその時
代の国内外の動きも含めて解説し、参加された皆さんの
ヒマラヤへの興味を駆り立てたいと考えています。

【参加者】

新本政子、魚津清和、岡野武司、小黒節郎、賀集信、黒
田記代、薦田佳一、諏訪千絵、竹中雅幸、中島隆、中村
久住、野村康、橋本圭之輔、宗實二郎、茂木完治、山田
健(以上関西支部)、他4名 計20名

支部山行21-49 第2回ヒマラヤ登山塾
世界最高峰エベレスト登山の歴史

加藤芳樹

11月28日(日)

ヒマラヤ登山史において、アンナプルナをはじめエポ
ックメイキングな登山はいくつもあるが、最高峰エベ
レストとその登山の歴史は、やはり関心の高いものである。

ヒマラヤ登山塾では、ヒマラヤの名峰の登山史やその
内容を、順次個別に講義されていくのであるが、その第
1回目がエベレストである。

講師の重廣さんは、言うまでもなく1973年のRCCⅡ
日本エベレスト登山隊に参加し、南壁(現南西壁)アタッ

ク隊として森田勝隊員とザイルを結んで、当時の南壁最高到達地点、8380mを記録した。隊の目標であった南壁登攀は、天候の悪化の兆しにより断念、ノーマルルート東南稜のポストモンスーン初登頂に切り替えられ、石黒久隊員と加藤保男隊員が登頂、ピバークの末に帰還した。この登山は、故・藤木高嶺さん、加藤保男氏、長谷川恒男氏ら、多くの人がそれぞれの立場で書き残し、さまざまなドラマがあったことが知れるが、実際に最前線で活動した重廣さんの口から語られるそれは、興味深いだけでなく、やはり面白いし、今や公募登山が主流で軽く見られがちであるエベレストという山の凄みを教えてくれるものである。重廣さんは1980年には、日本山岳会隊としてチョモランマ北壁を初登攀、1988年にはチョモランマ・サガルマタ三国友好登山隊でも活躍しているが、そこらはまたの機会に譲られることになるだろう。

南西壁登攀は、1970年の日本山岳会エベレスト登山隊(松浦輝夫、植村直己、平林克敏隊員が東南稜から登頂)の目標でもあったが、この時も断念している。日本人にとって因縁のある壁だが、1975年、クリス・ボニントンが隊長とするイギリス隊が初登攀に成功した。

日本隊とエベレストの歴史はそれ以後も続く。この2月に本部会員の神長幹雄氏が、山と溪谷社から『日本人とエベレスト』という書籍を編集、上梓されたので、興味のある方はご一読されるとよいだろう。

講義では、もちろん日本人だけでなくマロリー、ヒラリー、メスナーら世界各国のクライマーのエベレスト登攀、四方八方からの各ルートの解説、そして、ツアー登山ともいえる現在の公募登山の話に及んだ。

われわれ関西支部会員にとってエベレストが直接的な目標となることは実力も含めて現実的でないだろうし、今のエベレストに「世界最高峰」として以外の価値を見出すことは難しい。一方で、本部ユース会員から、エベレスト登山の可能性について積極的な質問がなされたのは、ヒマラヤ登山塾としては好ましいことであった。

【参加者】

新本政子、池尻英明、魚津清和、岡田輝子、加藤芳樹、黒田記代、薦田佳一、竹中雅幸、中川委紀子、中島隆、中村久住、中村三佳、野村康、茂木完治(以上関西支部)、岸野亮子、中谷康司、松尾みどり(以上本部)、他2名

計19名

支部山行21-57 第3回ヒマラヤ登山塾
「世界で1番美しい双耳峰ナンダ・デヴィ」
 竹中雅幸

12月26日(日)

2020年春のネパール・ヒマラヤ、ジャルキャ・ヒマール6,473m遠征から帰国後、コロナ禍で海外に出づらい今は、ヒマラヤのことをじっくり学ぶ時間にしたいと考えていた。また具体的な遠征計画が立てづらい状況の中で、ヒマラヤへのモチベーションを保つ何かを探してもいた。そんな折、ヒマラヤ登山塾が開催されることとなり、先述の状況に合致し、なにより重廣さんの貴重な体験談を聞けるまたとない機会とあって、すぐに参加したいと手をあげたのだった。

第3回は「世界で1番美しい双耳峰ナンダ・デヴィ」がテーマであった。ナンダ・デヴィはインドに位置し、主峰である西峰(7,816m)と東峰(7,434m)からなる双耳峰である。主峰は1936年にイギリス・アメリカ合同隊のテイルマンとオデルによって初登頂され、東峰は1939年にポーランド隊によって初登頂された。1951年にはフランス隊によって主峰から3kmの吊尾根を経た東峰への縦走が計画されたが、隊を率いたデュプラは主峰から東峰に向かい消息を絶っている。1976年に実施されたインド登山財団と日本山岳会の合同隊(鹿野勝彦隊長)によって東峰～主峰の初縦走がなされ、この登山隊の写真を映し出しながら今回の登山塾は進められた。

2時間の中でさまざまな話題があったが、個人的に目をひいたのはこの山のキャラバンルートの険しさであった。ナンダ・デヴィはガンジス川の支流であるダウリ・ガンガから分かれたリシ・ガンガの源流部に位置している。リシ・ガンガの上流部は深いゴルジュ帯となっており、ゴルジュを突破したナンダ・デヴィ内院にベースキャンプが置かれることが多い。1976年インド・日本合同隊も内院にベースキャンプを設営しているが、そこに至るまでの道中の険しさ、特にダランシ峠越えの写真はキャラバンという言葉の範疇を大きく越えているように思われた。急斜面の岩壁に残雪が張り付いており、峠に向かって斜めにトレースが刻まれている。歩いているのは大きな荷物を背負ったポーターたち。登山中の写真だと言われても違和感のない光景であった。キャラバンの困難さは内院までフィックスロープ2000mを要したことからも伝わってくる。

当初はベースキャンプまで、インド陸軍によるヘリでの隊荷輸送が計画されていたという。しかし、高地での

ヘリ着陸が叶わず、空中投下された荷物は見事に散乱しヘリ輸送は中止。その後はポーターと羊を使った輸送に切り替えられたという。この変更により隊荷輸送に時間を要することとなり、輸送担当の隊員がベースキャンプ入りした頃には東峰への第1次登頂が完了し、帰りのキャラバン手配のため輸送担当者はすぐさまベースキャンプから下らなくてはならなかったようだ。

この話を聞いて、ベースキャンプへの輸送が失敗したとしても諦めず、なんとか登山を続行し登頂するのだという隊の執念のようなものを感じたのだ。恥ずかしながら、ジャルキャ・ヒマール登山の際には、豊富な残雪と日々降り積もる新雪のためベースキャンプ入りに当初の想定より時間がかかってしまったということがあった。その他にもいくつかの要因があり、途中敗退という結果となってしまった。山の標高や隊の規模などスケールはまったく違えど、ベースキャンプ入りが当初の思惑と異なってしまったとき、ここまで粘れるのだというお手本を見せてもらったような気持ちを覚えた。こうした事例を知り、先人たちの苦勞を学び、まだまだ自分たちは頑張れる、頑張らなければと思わされたのが今回一番の収穫だと感じている。

キャラバンの話題以外にも、ナンダ・デヴィ内院に達するルートが発見されるのには50年の歳月を要したという話など、示唆に富む内容ばかりの濃い2時間であった。ヒマラヤのみならず、海外登山を志す登山者にはぜひ受講をお勧めしたい。

【参加者】

新本政子、池尻英明、魚津清和、岡田輝子、小黒節郎、賀集信、黒田記代、薦田佳一、竹中雅幸、豊田哲也、野村康、中川委紀子(以上関西支部)、坂井広志、中谷康司、松尾みどり(以上本部)、他8名 計23名

6. 自然保護委員会活動報告

令和3(2021)年10～12月

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫

－コロナ明けで鋭意休止分を回復すべく活動日数を増やす。この間新たに3名の入会者を得、心強い思い

◆日時：2021(令和3)年10月3日(日)9:30～15:30

気象：晴(気温23℃)

活動エリア：44林班ろ、は-01

活動内容：森林機能強化(作業道設置準備)

参加者：猪川誠、石原順子、斧田一陽、倉谷邦雄、薦田佳一、武田壽夫、中島隆、宮本廣、山本國夫 計9名

◆日時：2021(令和3)年10月10日(日)9:30～15:30

気象：晴(気温23℃)

活動エリア：44林班ろ、は-01

活動内容：森林機能強化

参加者：猪川誠、石原順子、大本孝子、斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、河野直子、武田壽夫、湊亮、宮本廣、山本國夫 計11名

◆日時：2021(令和3)年10月17日(日)9:30～15:00

気象：晴(気温14℃)

活動エリア：45林班に-03

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：猪川誠、石原順子、内海宏一、斧田一陽、武田壽夫、中村賢三、湊亮、宮本廣、(体験)松井知世 計9名

◆日時：2021(令和3)年10月24日(日)9:30～15:00

気象：晴(気温12℃)

活動エリア：44林班は-02

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：猪川誠、斧田一陽、黒山泰弘、河野直子、武田壽夫、中村賢三、宮本廣、山本國夫 計8名

◆日時：2021(令和3)年11月4日(木)9:30～15:00

気象：晴(気温14℃)

活動エリア：44林班は-02

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：猪川誠、石原順子、斧田一陽、黒山泰弘、武田壽夫、山本國夫 計6名

◆日時：2021(令和3)年11月11日(木)9:30～15:00

気象：晴(気温7～8℃)

活動エリア：44林班は-02

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：猪川誠、石原順子、内海宏一、斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、宮本廣、山田真也、山本國夫 計10名

◆日時：2021(令和3)年11月21日(日)9:30～15:00

気象：晴(気温11～12℃)

活動エリア：44林班は-02

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：猪川誠、大本孝子、斧田一陽、倉谷邦雄、河野直子、薦田佳一、武田壽夫、中村賢三、宮

本廣、山田真也、山本國夫、(体験)中川義行
計12名

- ◆日 時：2021(令和3)年12月2日(木)9:30～15:00
気 象：晴(気温3～4℃)
活動エリア：44林班は-02
活動内容：地域環境保全(里山林保全)
参加者：猪川誠、石原順子、内海宏一、斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、武田壽夫、中川義行、中村賢三、宮本廣、山田真也、山本國夫
計12名

- ◆日 時：2021(令和3)年12月7日(火)9:30～12:00
気 象：小雨
活動エリア：45林班に-01、44林班は-01・02
活動内容：現地安全研修
参加者：猪川誠、斧田一陽、河野直子、武田壽夫、中村賢三、宮本廣、中川義行、(体験)竹歳三喜子
計8名

講 師：(さともり推進事務局)：牧野事務長、山本前事務長

- ◆日 時：2021(令和3)年12月12日(日)9:30～15:00
気 象：晴(気温10℃)
活動エリア：45林班に-04
活動内容：地域環境保全(里山林保全)
参加者：猪川誠、大本孝子、斧田一陽、倉谷邦雄、薦田佳一、竹歳三喜子、武田壽夫、中村賢三、宮本廣、中川義行、山本國夫
計11名

- ◆日 時：2021(令和3)年12月19日(日)9:30～15:00
気 象：晴(気温1～3℃)
活動エリア：44林班は-02
活動内容：地域環境保全(里山林保全)
参加者：猪川誠、内海宏一、大本孝子、斧田一陽、工藤貴士、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、山田真也、宮本廣、山本國夫
計11名

◎スケッチ同好会◎

【案 内】

第48回

日 時：5月9日(月)～11日(水)
行 先：蒜山高原
交 通：高速バスと休暇村送迎バス
費 用：約4万円(「蒜山休暇村」宿泊代・高速バス代)
申込み：3月31日(木)まで 担当 岩崎しのぶ
e-mail：sinobu160930@gmail.com
(携帯)090-5365-8446

第5回 スケッチ同好会グループ展

日 時：2022年6月7日(火)～6月11日(土)
会 場：大阪市立総合生涯学習センター・ギャラリーB
(大阪駅前第2ビル5階 ☎06-6345-5000)



摂津峡キャンプ場 画：浦上芳啓

【報 告】

第45回 摂津峡

日 時：2021年11月27日(土)
参加者：岩崎しのぶ、浦上芳啓、岡田輝子、金井良碩、久保和恵、河野直子、薦田佳一、嶋岡章、助川征、高木知子、田頭夏子、野村哲夫、播戸日出生、横山規江
計14名

第46回 近江舞子

日 時：2022年1月17日(月)
参加者：岩崎しのぶ、浦上芳啓、岡田輝子、金井良碩、久保和恵、河野直子、薦田佳一、田頭夏子、播戸日出生、宮野章、横山規江
計11名



近江舞子内湖と比良山系 画：宮野 章

東お多福山草原保全再生研究会参加活動報告

斧田一陽

日時：2021(令和3)年10月6日(水)

コロナの影響により今年度初めての作業日には、各団体より30数名が集まり、10時30分より作業開始。山頂より芦屋市側の登山道の両側各1.5m幅のネザサを刈り取る。別班の東お多福山観察会、神戸植生研究会は、コードラート2、3、4、6の補修と調整を行った。

草原ではススキはもとよりオミナエシ、リンドウ、センブリ、アキノキリンソウ、シラヤマギクが咲き、頂上近くでツルリンドウを初見。

参加者：斧田一陽、桐村登美枝、田島聖子 計3名

日時：2021(令和3)年11月27日(土)

各団体より総勢29名が集まり、コードラート4の全面刈り取りを行う。昼食前に曇交じりの雨が降り始め、午後の作業は中止。

参加者：斧田一陽、田島聖子 計2名

日時：2021(令和3)年12月11日(土)

各団体より総勢47名が集まり、前回刈り残したコードラート4及び、3、6の刈り取りを行う。午前中は刈払機5台でコードラート4の全面刈り、電動バリカン3台で6、手刈りで3の作業を行う。昼食後、刈払機5台は3に移動、手刈り作業員は4のネザサの廃棄作業、続いて作業を終えた3、6の廃棄を終え、14時30分に作業終了。

参加者：桐村登美枝、田島聖子 計2名

個人山行(2021年10月～12月)

安全委員会に提出された個人山行登山計画書

10月 4日～5日	南ア	北沢峠から甲斐駒ヶ岳
10月 7日～9日	南ア	黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳
10月14日	六甲	甲山
10月14日	京都西山	大暑山～小塩山
10月21日～23日	奥秩父	瑞牆山 金峰山
10月21日	友ヶ島	観念窟
10月21日	六甲	蓬莱峡 クライミング練習
10月30日	丹波	向山～譲葉山
11月 4日～7日	北八ヶ岳	北横岳
11月 6日	丹波	譲葉山
11月11日	六甲	天覧台～長峰山
11月11日～13日	奥秩父	甲武信ヶ岳
11月13日	泉南	平山
11月16日	六甲	日柳川(沢登り)
11月19日	六甲	ロックガーデン～金鳥山
11月19日～22日	久住山・祖母山・由布岳	
11月25日	北摂	大野山・柏原川支流(沢登り)
11月25日	和泉山脈	岩雄山
11月26日	金剛山地	明神山
11月27日	北摂	摂津峡～竜王山
11月28日	京都北山	箕ノ裏ヶ岳
12月 1日	北摂	雨乞山

登山計画書(届)の提出を!

遭難対策として登山計画書を提出してください。

計画書の作成は、より豊かな山登りへの第一歩です。

- ・個人山行を含む全ての登山や日帰りハイキング
- ・緊急連絡先(留守本部)は家族でも可
- ・出発の直前でも提出可
- ・やむをえない場合は未完成でも可

■提出先：関西支部安全委員会

①メール：keikakukansai@yahoo.co.jp

②FAX：0742-48-5946 黒田記代

③郵送：〒630-8034奈良市五条西1-29-4

黒田記代

※警察署等へは、別途提出してください。

「ヒマラヤの沢登りとトレッキング」の募集

山行委員会

ネパール・ランタン溪谷で標高差3000mのトリスリ谷の沢登りに挑戦し、別働のトレッキング隊とゴサインクンドで合流してスルヤピーク(5145m)の登頂を目指します。沢、あるいはトレッキングに興味のある方は茂木まで問合せください。

1. 期日 2021年10月23日(日)～11月9日(水)
2. 場所 ランタン溪谷のゴサインクンド
3. 予算 30万円(海外登山保険含む)
4. 申込期限 5月31日
5. 高所順応訓練(富士山で7月30-31日と8月27-28日)

12月 9日～11日 大菩薩嶺
 12月22日～26日 ハヶ岳 赤岳
 12月27日 京都府井手町 山吹山～有玉山

12月29日 六甲 菊水ルンゼ(沢登り)



Room目録(2021年10月～12月)

10月13日 90周年事業委員会	11月 7日 支部三役会議	12月 8日 90周年出版打ち合わせ
10月20日 財務委員会	11月12日 事務作業	12月15日 支部報発送作業
10月20日 支部役員会	11月17日 支部役員会	12月15日 支部役員会
10月23日 事務作業	11月28日 事務作業	12月21日 支部三役会議
10月31日 事務作業	12月 1日 山行ひろば	12月22日 山行委員会

2022年4月～6月 山行委員会行事案内

※後尾に申込み先連絡先掲載【いずれも締切厳守】

22-1 第7回関西のアルプス踏査

「金勝アルプス」

日 時：4月10日(日)

集 合：JR琵琶湖線草津駅7:50

8:00発バスに乗車

コース：上桐生～落ヶ滝～鶏冠山～白石峰～竜王山～
白石峰～狛坂摩崖仏～上桐生

地 図：2.5万分の1【瀬田】【三雲】

備 考：雨天決行

申込み：4月2日(土)迄(担当：黒田記代)

22-2 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日 時：4月14日(木)

集 合：阪急宝塚駅8:30

装 備：ハーネス、ヘルメット、登攀具、クライミン
グシューズなど

申込み：4月7日(木)迄(担当：江村俊也)

22-3 第10回山岳古道調査

「葛城修験の道」南葛城山鏡の宿第十四経塚、天見不動
第十七経塚

日 時：4月16日(土)

集 合：JR和歌山線妙寺駅9:10

コース：妙寺駅(タクシー)蔵王峠～蔵王権現～桃の木
ダオ～南葛城山鏡の宿第十四経塚～阿弥陀山
分岐～天見不動第十七経塚～紀見峠～南海高
野線紀見峠駅

地 図：2.5万分の1【岩湧山】

備 考：歩行距離約14.5km

申込み：4月8日(金)迄(担当：永井和)

22-4 雪稜シリーズ⑦

「両白山地 経ヶ岳」

日 時：4月16日(土)～17日(日)

備 考：詳細は申込者に連絡します。

申込み：3月31日(木)迄(担当：江村俊也)

22-5 ゆるやか山行【里山探訪2】歴史と文化を訪ねて

「布見竜王山368m」

日 時：4月21日(木)

集 合：JR宝塚線武田尾駅8:50

コース：武田尾駅(バス)西谷の森公園口～布見竜王山
～公園入口～丸山湿原～JR道場駅

地 図：2.5万分の1【武田尾】

備 考：歩行距離約12km 歩行時間約5時間

申込み：4月13日(水)迄(担当：久保和恵)

22-6 月例会(4月)

「甲山・ボルダリング発祥の地・ごろごろ岳」

日 時：4月23日(土)

集 合：阪急仁川駅9:00

コース：仁川駅～東六甲石丁場跡～甲山八十八ヶ所巡
り～北山公園～ごろごろ岳～芦屋川駅

地 図：2.5万分の1【宝塚】

備 考：歩行距離約13km 歩行時間約7時間

申込み：4月15日(金)迄(担当：野村 康)

22-7 沢登り例会

「舟ノ川支流イブキ畠谷の桶側ノ滝往復」
 日 時：4月24日(日)
 集 合：車利用のため参加者に後日連絡します。
 地 図：2.5万分の1【辻堂】【釈迦ヶ岳】
 備 考：詳細は申込者に個別連絡します。
 申込み：4月8日(金)迄(担当：中久保忠伸)

22-8 第11回山岳古道調査

「葛城修験の道」岩湧寺第15、流谷第16経塚
 日 時：4月30日(土)
 集 合：南海高野線河内長野駅前バス停8:50
 コース：河内長野駅(バス)滝尻～横谷～岩湧寺第15経塚～行司河原分岐～流谷第16経塚～南海高野線天見駅
 地 図：2.5万分の1【岩湧山】
 備 考：歩行距離約12.5km
 申込み：4月22日(金)迄(担当：永井 和)

22-9 六甲山を歩く

「えっ!!こんな山あったん!?!」
 日 時：5月7日(土)
 集 合：神戸市営地下鉄県庁前駅地下改札口9:00
 コース：県庁前～諏訪山公園～再度山～高雄山～森林植物園東口～ヌケ谷～山田道～谷上駅
 地 図：2.5万分の1【神戸首部】【有馬】
 備 考：歩行距離約12.5km 歩行時間約6時間
 申込み：5月2日(月)迄(担当：江村俊也)

22-10 第8回関西のアルプス踏査

「紀泉アルプス」
 日 時：5月15日(日)
 集 合：JR阪和線山中溪駅8:30
 コース：山中溪駅～雲山峰～大福山～札立山～飯盛山～みさきこうえん駅
 地 図：2.5万分の1【岩出】【淡輪】
 備 考：雨天決行、健脚向き
 申込み：5月7日(土)迄(担当：黒田記代)

22-11 ゆるやか山行【里山探訪2】歴史と文化を訪ねて

「黒井城跡(猪ノ口山356m)」
 日 時：5月19日(木)
 集 合：JR福知山線黒井駅改札口前10:10
 コース：黒井駅～興禅寺～登山口～黒井城跡～登山口～黒井駅
 地 図：2.5万分の1【黒井】
 備 考：歩行距離約3km 歩行時間約3時間
 申込み：5月11日(水)迄(担当：久保和恵)

22-12 第12回山岳古道調査

「葛城修験の道」岩瀬の経塚山第十八、桂本第十八経塚
 日 時：5月21日(土)
 集 合：南海高野線千早口駅8:50
 コース：千早口駅～岩瀬の経塚山第十八経塚～府庁山～十字峠～西の行者～行者杉～杉尾不動～桂本第十八経塚～南海高野線紀見峠駅
 地 図：2.5万分の1【岩湧山】【五條】
 備 考：歩行距離約17.3km、健脚向き
 申込み：5月13日(金)迄(担当：永井 和)

22-13 月例会(5月)

「須磨アルプス」
 日 時：5月22日(日)
 集 合：山陽電鉄須磨浦公園駅9:00
 コース：須磨浦公園駅～旗振山～横尾山～須磨アルプス～鶴越駅
 地 図：2.5万分の1【須磨】【神戸南部】【神戸首部】
 備 考：歩行距離約12km 歩行時間約5時間
 申込み：5月15日(日)迄(担当：岡野武司)

22-14 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」
 日 時：5月26日(木)
 集 合：阪急宝塚駅8:30
 装 備：ハーネス、ヘルメット、登攀具、クライミングシューズなど
 申込み：5月19日(木)迄(担当：江村俊也)

22-15 沢登り例会

「不動谷川支流弁天谷」
 日 時：5月29日(日)
 集 合：南海高野線紀伊細川駅9:00
 地 図：2.5万分の1【高野山】
 備 考：詳細は申込者に個別連絡します。
 申込み：5月13日(金)迄(担当：中久保忠伸)

22-16 沢登り例会(初級)

「六甲山布引谷の地藏谷」
 日 時：6月4日(土)
 集 合：新幹線新神戸駅地下鉄出入口付近9:00
 コース：新神戸駅前～地藏谷出合～摩耶山～摩耶ヶーブル駅
 地 図：2.5万分の1【神戸首部】
 備 考：沢装備一式
 申込み：5月27日(金)迄(担当：茂木完治)

22-17 月例会(6月)

「キャニオニング体験」

日 時：6月12日(日)
 集 合：奈良県川上村・入之波村(しおのはむら)の青
 空ファンベース12:15

コース：ベース～本沢川・白倉又谷～ベース

備 考：費用9800円(保険込)
 プロガイドの青空ファンさんの指導で体験し
 ます。

装 具：ウェットスーツ、ライフジャケット、ヘルメ
 ットなど装具は無料貸出。

申込み：5月12日(木)迄(担当：茂木完治)

22-18 ゆるやか山行【里山探訪2】歴史と文化を訪ねて
 「飯盛山315.9m」

日 時：6月16日(木)

集 合：JR学研都市線四条畷駅改札口前9:30

コース：四条畷駅～飯盛山～むろいけ園地～堂尾池～
 戎公園BS

地 図：2.5万分の1【大阪東北部】

備 考：歩行距離約10km 歩行時間約5時間

申込み：6月8日(水)迄(担当：久保和恵)

22-19 第13回山岳古道調査

「葛城修験の道」神福山第十九経塚

日 時：6月18日(土)

集 合：南海高野線林間田園都市駅8:21

コース：林間田園都市駅(バス)小峯台中～東覚寺～大
 澤寺～行者杉～神福山第十九経塚～中葛城山
 ～北山町・草谷寺～地福寺～JR和歌山線北

宇智駅

地 図：2.5万分の1【五條】

備 考：歩行距離約20km、健脚向き

申込み：6月10日(金)迄(担当：永井 和)

22-20 第9回関西のアルプス踏査

「新龍アルプス」

日 時：6月19日(日)

集 合：JR姫新線本竜野駅9:30

コース：本竜野駅～鶏籠山～的場山～亀山～祇園岳～
 鶴嘴山～東鶯崎駅

地 図：2.5万分の1【龍野】

備 考：雨天決行(但し、当該地域に6:00に警報等が
 出た場合は中止)

申込み：6月12日(日)迄(担当：重廣恒夫)

22-21 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日 時：6月23日(木)

集 合：阪急宝塚駅8:30

装 備：ハーネス、ヘルメット、登攀具、クライミン
 グシューズなど

申込み：6月16日(木)迄(担当：江村俊也)

22-22 第7回ヒマラヤ登山塾

「五大宝蔵の山カンチェンジュンガ縦走」

日 時：6月26日(日)

開催時間：15:00～17:00

開催場所：大阪梅田第2ビルB4F(ロッジ大阪店地下)

おめでとうございます！



自然保護委員会担当理事の斧田一陽氏が公益財団法人大阪府スポーツ協会の創立75周年顕彰で会長表彰(体育功労賞)を昨年末に授与されました。これは大阪府山岳連盟に昭和45年より関わり、長く役員を務められ、現在は顧問をされている長年の活動への貢献が認められたものです。

氏は関西支部においても今年10周年を迎える『本山寺森林づくりの会』の設立など自然保護活動に尽力されています。

心からお祝いを申し上げますとともに、これからの益々のご活躍とご指導をお願い申し上げます。

(関西支部 支部長 茂木完治)

参加費：500円(資料代)

備考：事前申し込み制(開催日の10日前にメ切)

参加人数(当分の間20名とし、先着順)

申込締切：6月16日(木)迄(担当：重廣恒夫)

申込み先一覧

江村俊也	tobi.osaka@me.com
岡野武司	yfd78090@nifty.com
久保和恵	uncletorys05-kazu@nifty.com
黒田記代	kuroda2822@ken.jp
重廣恒夫	tsuneo.shigehiro@outlook.com
永井 和	nagai.kazu@gmail.com
中久保忠伸	qq8v9xu9tnnt@jcom.zaq.ne.jp
野村 康	n0mura87.32@nifty.com
松仲史朗	mgjqk966@ybb.ne.jp
茂木完治	yib03510@nifty.com
関西支部	kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般募集

(会員・準会員・会友も参加可能)

受講料：1回1,500円

※詳細については関西支部ホームページをご覧ください。

- ・登山教室座学 4月9日(土)
- ・初級(登山に必要な知識・技術・体力養成)
5月14日(土) 高槻市営バス上ノ口BS～摂津峡～竜王山～阪急バス泉原BS
6月11日(土) JR福知山線草野駅～大谷山～八王子山～虚空蔵山～JR藍本駅
7月9日(土) 高槻市営バス出灰BS～桜木橋尾根～ボンボン山～釈迦岳～立石橋～奥海印寺BS
- ・中級(初歩の沢歩き、岩場の通過と登攀具の使用)
5月8日(日) 六甲(高座川)地獄谷～風吹岩～魚屋道～JR甲南山手駅
6月5日(日) JR武田尾駅～(武庫川)西の谷～大峰山～武田尾駅
7月3日(日) 阪急六甲駅～日柳川～長峰山～六甲駅
- ・上級(初歩の岩登り)
5月12日(木) 蓬萊峡
6月9日(木) 六甲・ゲートロック
7月7日(木) 六甲・キャッスルウォール

「山行ひろば」開催案内

支部ルームに集まり、登りたい山の話を楽しみましょう。

会員間の交流を図る場としてご利用下さい。

5月25日(水)

支部ルーム 18:30～20:30

(ネットでも同時開催、希望者は茂木完治まで)

「山行ひろば」報告

ネットで実施しました。

12月1日(火)

出席者：14名(茂木、竹中、中久保、柴田、野口恒、坂本、鷺本、辻、岡野、野村康、小黒、豊田、新本、黒田)

内容：麓の川上村在住の竹中さんが大台ヶ原周辺

の山々を紹介してくれました。竹中さんは

大峰大台のガイドをしています。

1月26日(火)

出席者：11名(辻、永井、池尻、坂本、野村康、中久保、豊田、井川、柴田、小黒、茂木)

内容：小黒さんがスイスのマッターホルン(4,478 m)登山を報告しました。標高差1200mを往復8時間で登頂したそうです。辻さんと豊田さんもマッターホルン経験者でヨーロッパ登山談義にしばし花咲きました。

(茂木完治・記)

2022年4月～6月 自然保護行事案内

1. 「日本山岳会関西支部 本山寺山の森」森づくり活動 (本山寺山森林づくりの会活動)

活動日：4月7日(木)、4月17日(日)、4月24日(日)、
5月5日(木)、5月15日(日)、5月22日(日)、
6月2日(木)、6月19日(日)、6月26日(日)
作業内容：倒木処理、林床整備、常緑広葉樹除伐、杭
止柵積、歩道保全など
集 合：JR京都線高槻駅北 アルプラザ前 8時40分
●体験作業、森林観察、入会歓迎です

内 容：池田市五月山西面の里山で、昆虫、小鳥、植
物の観察

指 導：横田 靖(大阪自然環境保全協会会員)
集 合：阪急池田駅改札口 9時15分

●本山寺山の森観察体験参加見学
期日・集合は、本山寺山森林づくりの会活動日と同じ
●東お多福山観察会
期 日：4月16日(土)、5月19日(木)、6月18日(土)
集 合：東お多福山登山口バス停 9時

2. 東お多福山ススキ草原復元活動(東お多福山草原保 全・再生研究会活動)

活動日：4月27日(水)
予備日：雨天など中止の場合、翌週同曜日
作業内容：ネザサ刈払い
集 合：JR神戸線芦屋駅南口 8時30分

問い合わせ・申込み先

斧田一陽(全般)
☎/FAX 072-633-6556、090-4037-4542
武田壽夫(本山寺山の森) ☎090-2042-9101
田島聖子(東お多福山活動、観察会) ☎078-411-3837
河野直子(池田市細川の自然観察) ☎090-6960-9998
締切：開催日の2週間前まで(細川の自然観察は4月
25日)

3. 自然視察会・森林観察会

●池田市細川の自然観察
期 日：4月27日(水)



支部報の広告をご覧になってますか。現在岳人&モンベル、イワタニ・プリムス、ファイントラック、ケンコー社の4社が広告を載せてくれています。その企業が利用者に知ってほしいことや特色などを紹介することにしました。4回目はケンコー社です。

支部長のスポンサー紹介 その4

ケンコー社

みなさん、いつも広告を出していただいているケンコー社さんをご存じですか。若い人はたぶん知らな



大阪北区の
ケンコー社
本社ビル

い方が多いのではないのでしょうか。そこでどんな会社か紹介したいと思います。

ケンコー社は大阪の北区に本社のある登山用品の輸入商社で、1979年に新ケンコー社という社名でスタートしました。

ブルーアイス(仏)、ビッグアグネス(米)、フィッツ(米)の代理店ですが、これらのブランドは皆さんもよくご存じでしょう。関西支部評議員の中村久住氏が会長をされています。

中村氏は往年のクライマーで、1970年にヒマラヤのダウラギリ6峰(7268m)に初登頂されました。大阪府岳連の会長も2016年から19年まで務められ、安全登山の普及に尽力されておられます。

(No.13568 茂木完治)

[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ **岳人**

山岳
雑誌

春山

花の山、
残雪の山

発売中

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

▶ 年間購読がおすすめ

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

通常価格
12冊

10,560円(税抜)
→ 11,616円(税込)

年間購読
12冊

9,680円(税抜)
10,648円(税込)

1冊分
おトク!



価格:968円(税込)

年間購読のお申し込みはこちらから!▶▶▶

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。



HydraPak

リーコン500ml

¥2,090 (税込)

【カラー】ライム/バイオレット/ホワイト
【重量】144g



- リサイクル素材を使用し環境に優しい
- 半回転ですぐ飲める新しいキャップ
- お手入れも簡単

※500mlのほか、750mlと1Lがございます

輸入元: (株)ケンコー社 TEL: 06-6374-2788
※カタログをご希望の方は、弊社までご連絡くださいませ。



この1枚が、登山を変える。

DRY LAYER®



ドライレイヤー 検索

〈編集後記〉

☆今回は、久しぶりに山行報告が多く、担当者として校正が大変でした。しかし、支部山行が再開されたこと、こんな嬉しいことはありません。皆さまの報告や写真から、笑顔がこぼれています。山を楽しむことは、本当に有難いことだと感じます。感染対策を取り、くれぐれも十分に注意して、支部山行に出かけましょう。来期に計画されている行事もどうか中止になりませんように。(中村三佳)

第187号 2022(令和4)年3月10日 発行
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22
梅田東ビル 3階 304号室
公益社団法人 日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 茂木完治
編集 加藤芳樹 中村三佳
制作 株式会社 双陽社 大阪市北区堂島2-2-28



私たちは 人と自然をつなぐ道具を 提案します。

IWATANI-PRIMUS

イワタニ・プリムス株式会社
www.iwatani-primus.co.jp
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-12-20